

アジア原子力協力フォーラム (FNCA)
第 1 回コーディネーター会合
平成 12 年 3 月 7、8 日 東京

プレスリリース(仮 訳)

第 1 回コーディネーター会合は、1999 年 3 月に東京で開催された第 10 回アジア地域原子力協力国際会議(10th INCNA)の合意に基づき企画された。同国際会議では、地域協力活動をよりシステマチックに運営するため、各国から 1 名のコーディネーターおよび 7 つの地域協力活動分野につきそれぞれ 1 名のプロジェクト・リーダーを選任することが参加 9 カ国の間で合意された。これにより 1999 年 4 月、「アジア原子力協力フォーラム(FNCA)」という新たな枠組が発足した。

1. アジア原子力協力フォーラム(FNCA)の第 1 回コーディネーター会合は、2000 年 3 月 7、8 の両日、東京で開催された。
同会合には、オーストラリア、中国、インドネシア、日本、韓国、マレーシア、フィリピン、タイ、ベトナムの 9 カ国およびオブザーバーとして国際原子力機関(IAEA)が参加した。
2. 2 日間にわたる審議を経て、第 1 回コーディネーター会合の参加者は、以下の項目について合意した：
 - (A) これまで 10 年間の地域協力活動は、原子力分野の基盤を開発する上できわめて重要であり、これらの原子力科学・技術分野における協力活動が FNCA 参加諸国に社会的・経済的な利益をもたらしたことは特記すべきである。
 - (B) 新たな枠組みである「アジア原子力協力フォーラム(FNCA)」体制の導入は、相互理解に基づく相互協力活動でのパートナーシップというこれまでの INCNA の成果を受け継ぎ、9 カ国間の地域協力活動をより効果的かつ効率的に促進することを目標とするものである。
 - (C) 現在進められているプロジェクトの成果を最大限に享受するため、さまざまな地域協力活動の進め方およびあり方を検討すべきであることが合意された。
 - (D) 参加各国では FNCA 体制下での地域協力活動に対する国内的な支援体制を確立することが重要である。
3. コーディネーター会合では、以下の 7 つの地域協力分野の活動の進展状況および 3 ヶ年計画についてレビューが行われ、参加者の同意がなされた：
 - ・ 研究炉利用
 - ・ 農業へのラジオアイソトープ・放射線の利用
 - ・ 医学へのラジオアイソトープ・放射線の利用
 - ・ 原子力のパブリック・アクセプタンス
 - ・ 放射性廃棄物管理

- ・ 原子力安全文化
- ・ 人材養成

来年のコーディネーター会合では、各プロジェクトの目的と目標をさらに特定したドキュメントを準備することが合意された。

また、2000年度のワークショップ開催地についても、次のとおり合意がなされた：

- ・ 研究炉利用：韓国
- ・ 農業へのラジオアイソトープ・放射線の利用：ベトナム
- ・ 医学へのラジオアイソトープ・放射線の利用：インドネシア
- ・ 原子力のパブリック・アクセプタンス：韓国
- ・ 放射性廃棄物管理：オーストラリア
- ・ 原子力安全文化：中国
- ・ 人材養成：日本

4. 次の合意がなされた：

- ・ 「アジア原子力協力フォーラム (FNCA)」という名称は、地域協力活動体制全体をさすとともに、大臣レベル会合 (MM) と上級行政官レベル会合 (SOM) からなる会議自体も示すものとする。各種の会合の機能の重複を避ける方法を検討する。
- ・ 「アジア地域原子力協力活動 (RNCA)」という名称は、FNCA 体制下で実施されている地域協力活動を示すものとする。

5. タイの代表より、タイ科学技術・環境省 (MOSTE) および日本の原子力委員会の共催による第1回 FNCA を開催する意志が確認された。第1回コーディネーター会合は、第2回 FNCA の開催地として日本、また第3回の開催地として韓国を推薦した。

6. 原子力発電関連の活動を FNCA 協力で考慮することへの関心を表明した参加国もあった。

7. 放射線・ラジオアイソトープ技術を安全に使うシステムの強化が討議された。今後、国際原子力機関 (IAEA)、日本の科学技術庁 (STA)、およびその他の国々のフェローシップ制度を含め、既存の人材交流制度をさらに効率的に活用することの必要性も討議された。

8. 「パブリック・アクセプタンス」という言葉が適切であるかが議論された。

9. タイの代表が、最近起こった使用済 Co-60 線源事故について説明し、この事故の報告を2000年のPAワークショップと放射性廃棄物管理ワークショップで行う提案が承認された。

10. 資源の利用の最適化のために、FNCA の活動と、IAEA の進めている RCA (アジア地域原子力協力協定) 活動の連携緊密化を促進し、重複回避を図ることが、奨励された。

11. 第1回コーディネーター会合は以下の「目的に関する声明」を採択することに合意した。

「FNCA は、原子力技術の平和目的に限定したかつ安全な使用における地域のパートナーシップを通して、社会経済の発展を拡充する」

12. 日本のコーディネーター・オフィスは、要請があれば FNCA 参加国のコーディネーターの便に応じる意志があることを表明した。

FNCA 参加国から原子力利用の企画・運営・管理に関わっている人材を、FNCA の枠組下での活動の発展と円滑な進展を図ることを目的に、日本原子力産業会議のアジア協力センターにフェローとして受け入れる新しい試みが始まった。その成果として、本年度はタイと韓国からのフェロー各1名を受け入れたことが紹介された。

第1回コーディネーター会合の開催について

1. 目的

- ① 新しいFNCA（アジア原子力協力フォーラム）体制下での活動実施全般に関わる事項（活動報告、成果レビュー、計画等）を機動的に審議し、調整を図る。
- ② FNCA体制下での活動の進め方の基本的な方針について、FNCAでの積極的な審議を仰ぐ上で必要な事項を検討、整理する。結果は上級行政官会合および大臣会合に報告・提言する。
- ③ 「第1回アジア原子力協力フォーラム」プログラム等について意見を交換する。

2. 日時・場所

- ・日時：平成12年3月7日（火）、8日（水）
- ・場所：赤坂プリンス・ホテルの旧館2階「サファイア・ホール」（東京都千代田区）
- ・主催：科学技術庁

3. 出席者

- ・各国コーディネーター（オーストラリア、中国、インドネシア、日本、韓国、マレーシア、フィリピン、タイ、ベトナム）
- ・国際原子力機関（IAEA）はオブザーバーとして招請
- ・次年度の各分野のワークショップ開催国のプロジェクト・リーダー
- ・日本の7分野のプロジェクト・リーダー
- ・オブザーバー（外務省、通産省、農水省、厚生省、文部省等）

4. セッション構成

3月6日（月） 海外参加者来日

3月7日（火）

- | | |
|-------------|--|
| 9:00-9:30 | 受付 |
| 9:30 | 開会
科学技術庁原子力局国際協力・保障措置課長 中野賢行 |
| 9:30-9:35 | 科学技術庁挨拶
科学技術庁原子力局長 興直孝 |
| 9:35-9:45 | 原子力委員挨拶
遠藤哲也原子力委員 |
| 9:45-9:50 | 関係省庁挨拶
ー 外務省 |
| 9:50-9:55 | 参加者自己紹介 |
| 9:55-10:00 | 第1回コーディネーター会合のアジェンダの確認およびセッション議長の確認 |
| 10:00-11:00 | <u>セッション1「新たなFNCA体制下での協力活動について」</u>
共同議長：ガーネット（オーストラリア）＋バクリ（インドネシア）
日本側説明：日本側コーディネーター代行(30分) |

- ①新体制の概要
- ②地域原子力協力活動（R N C A）の運営についての確認
 - ・コーディネーターとプロジェクト・リーダーの機能（職務・役割）
 - ・F N C A、コーディネーター会合の位置づけ
 - ・ワークショップの位置づけ
- ③討議（30分）

11:00・18:00 セッション2「協力活動の現状報告・レビューと、2000年度を含む3カ年活動計画」

（下記その1）～その7）までのプロジェクトごとの審議手順）

- (1) R N C Aでのこれまでの協力活動に関するレビューと 2000 年度を含む3カ年活動計画についての提案
 - ・（日本の各プロジェクト・リーダー）（20分）
 - ＊「原子力安全文化」は豪州が説明。
 - ・1999年度のワークショップ共催国のコメント（5分）
- (2) 2000年度のワークショップ開催について（各開催予定国のプロジェクトリーダーからの紹介）（5分）
- (3) プロジェクトについて各国からのコメント（その国での評価を含む）と討議（20分）

○（前半）共同議長：デ・ラ・ロサ（フィリピン）＋アドナン（マレーシア）

- 11:00・11:50 （その1）研究が利用
- 11:55・12:50 昼食 於別館3階「マーガレット・ホール」
- 12:50・13:40 （その2）農業利用
- 13:40・14:30 （その3）医学利用
- 14:30・15:20 （その4）P A （含アジア原子力協力ネットワーク）
- 15:20・15:30 コーヒーブレイク

○（後半）共同議長：李（中国）＋タン（ベトナム）

- 15:30・16:20 （その5）放射性廃棄物管理
- 16:20・17:10 （その6）原子力安全文化 ＊豪州が説明。
- 17:10・18:00 （その7）人材養成

3月8日（水）

9:30・11:30 セッション2: 継続

共同議長：マヌーン（タイ）＋中野（日本）

- （その8）（その1）～（その7）を踏まえての2000年度を含む3カ年活動計画の審議・承認（40分）
- （その9）R N C Aの今後の運営と第1回F N C Aへの報告・提案事項（80分）

- ①活動形態（ワークショップ、共同研究、ネットワーク、データベースの活用等）
- ②新規テーマの取り上げ方や活動テーマの統廃合のあり方
- ③各国の役割（各国国内での RNCA 協力体制、資金を含めた今後の相互貢献）
- ④政策検討用文書のドラフトの検討

11:30-12:15	<u>セッション3「第1回フォーラム開催案について」</u> 議長：チュン（韓国） ①第1回「フォーラム」プログラム案についての意見聴取（タイ側説明＋質疑応答・意見表明）（45分）
12:15-13:30	昼食 於別館3階「ローズ・ルーム」
13:30-14:30	<u>特別講演</u> 1. JCO事故に関する報告（30分） 科学技術庁原子力安全局原子力安全調査室長補佐 白井基晴 2. 「東アジア・太平洋地域のための国際原子力機関（IAEA）技術協力計画における地域協力協定（RCA）」（30分） IAEA・RCAコーディネーター C. R. Aleta 氏
14:30-15:00	アジア原子力協力ネットワーク（AsiaNNet）の説明とホームページのデモンストレーション
15:00-16:00	<u>セッション4「総括セッション」</u> 共同議長：中野（日本）＋マヌーン（タイ） ①政策検討用文書の検討・採択 ②プレスリリースの検討・採択
16:00-16:05	閉会挨拶 科学技術庁長官官房審議官（原子力局担当） 中澤佐市
16:30-17:00	記者会見
17:00-18:30	フェアウェル・レセプション 於別館3階「マーガレット・ルーム」
3月9日（木）	<u>テクニカル・ツアー</u> ①農林水産省農業生物資源研究所放射線育種場 ②高エネルギー加速器研究機構
3月10日（金）	海外参加者帰国

第1回コーディネーター会合海外参加者予定リスト

2000年3月7日 - 8日 於東京

オーストラリア

ヘレン・ガーネット (コーディネーター)	オーストラリア原子力科学技術機構 (ANSTO) 専務理事
ステファン・ファビアンソン (代理コーディネーター)	オーストラリア原子力科学技術機構 (ANSTO) 科学計画・政策アナリスト

中国

リー・シアン (李 警) (コーディネーター)	中国国家原子能機構 (CAEA) 国際協力局地域協力担当官
レイ・メイファン (雷 梅芳)	中国核工業集団公司 (CNNC) 国際合作部国際合作課課長
チアオ・シューロン (喬 書榮) (プロジェクトリーダー/放射性廃棄物管理)	中国核工業集団公司 (CNNC) 安防環保衛生部環保応急課課長

インドネシア

イヨス R. スプキ	インドネシア原子力庁 (BATAN) 長官
バクリ・アルビ (コーディネーター)	インドネシア原子力庁 (BATAN) 次官
クント・ウィハルト (プロジェクト・リーダー/医学利用)	放射線安全性・核医学研究開発センター 所長

韓国

ジンキョン・キム (コーディネーター)	科学技術部 (MOST) 原子力国際協力課長
ジュンクック・チュン (コーディネーター代理/プロジェクトリーダー/PA)	韓国原子力研究所 (KAERI) 広報・国際協力部 プロジェクトマネージャー
ピョンジン・チョン (プロジェクトリーダー/研究炉)	韓国原子力研究所 (KAERI) HANAROセンター HANAROグループ統括部長

マレーシア

アドナン・ハジ・カリッド (コーディネーター)	マレーシア原子力庁 (MINT) 企画対外関係部長
アイヌル・ハヤティ・ダウド	マレーシア原子力庁 (MINT) 企画対外関係部上級研究官

フィリピン

アルマンダ M. デラロサ (コーディネーター)	フィリピン原子力研究所 (PNRI) 所長代行
エウリエア M. パルデスコ (プロジェクトリーダー/放射性廃棄物 管理)	フィリピン原子力研究所 (PNRI) 原子力業務・訓練部放射線防護業務課長
ビラール C. ロセレス	フィリピン原子力研究所 (PNRI) 技術協力部長・科学調査監督官

タイ

マヌーン・アラムラ (コーディネーター)	タイ原子力庁 (OAE P) 次官
ヤワラ・リーナヌバン	タイ原子力庁 (OAE P) 長官官房企画・国際関係課長
ジンダロム・チャワジャラーンバン	タイ原子力庁 (OAE P) 化学部上級原子力化学担当官

ベトナム

ヴォン・フー・タン (コーディネーター)	ベトナム原子力委員会 (VAEC) 副委員長
チャン・ドゥイ・クウイ (プロジェクトリーダー/農業利用)	ベトナム原子力委員会 (VAEC) 農業遺伝研究所長
ホアン・チ・ニユン	ベトナム原子力委員会 (VAEC) 国際協力企画部上級専門官

オブザーバー

カルリト R. アレタ	国際原子力機関 (IAEA) 技術協力局アフリカ・東アジア・太平洋部 RCA コーディネーター
-------------	---